

コラム

### コンポスト堆肥で家庭菜園



自宅の庭でコンポスト堆肥を利用して家庭菜園を楽しんでいます。春から夏にかけてじゃがいも・ネギ・きゅうり・トマト・ナス・枝豆・落花生、夏から秋・冬にかけて白菜・大根等の野菜を栽培し、それらの野菜が食卓をかざります。

栽培した野菜とスーパーで求めた食材の調理残渣を台所のダストボックスに貯めて、いっぱいになるとコンポストに移し畑の土で覆っています。コンポストがいっぱいになると、約2年間寝かし堆肥として畑に播きます。食材の調理残渣が土に含まれる微生物の働きで堆肥になると考えています。現在は4個のコンポストでこれを繰り返しています。畑では時々みみずや昆虫とそれを求めにくる鳥達を見かけるようになりました。

自宅ではこのコンポストで概ね144kg（約4kg×36回）／年間の生ごみを堆肥にしています。これにより市のごみ焼却施設によること無く、焼却時のCO<sub>2</sub>排出を削減していると考えます。

長野県の農家や広い庭のご家庭ではおそらくこのようにして生ごみの廃棄を減らしていると思われます。長野県が日本で廃棄物の少ない県になっている所以とも思います。この他にダンボール堆肥等の方法もありますが、このようにしていく事が地域のごみを減らす事とそれによる焼却のCO<sub>2</sub>排出削減と資源循環に寄与していると考えます。

【文責】樋口 嘉一

省エネで信州を暖かく

信州 12~2月

冬の省エネ キャンペーン

2050ゼロカーボンの実現に向けて

長野県PRキャラクター「アルクマ」  
©長野県アルクマ